

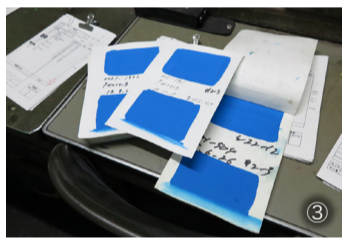
2月14日 ニッカー絵具株式会社さんの工場見学に行ってきました。



絵の具の会社らしいカラフルな外壁



この工房から新しい色、変わらぬ色が生み出される



- ①こだわりの最高級アラビアガムを使用。品質に差が出る。
- ②これまでの「色」のレシピが保存されている。
- ③原料の質が変わっても絵の具の質や色を維持するのが大変。

千住工房では、「手描きによる背景の描き方をビデオに残そう」という企画を行っています(youtube)。そんな中「そもそもアニメの背景に使われるポスターカラー(絵の具)はどこで作られているんだ?」という疑問が湧き、「それならいつも使っているポスターカラーの瓶に書かれているNICKERという会社にもメールを出してみよう!」ということになりました。まずは「NICKERって英語だね...どこの国にあるの?」から始まりましたが、なんと日本にありました、しかも東京の練馬に。



2月17日 「妄想力を高めるワークショップ」第5弾 in 調布美術研究所



今回も、調布美術研究所にて「妄想力を高めるワークショップ」を開催しました。今回は受験シーズンと重なったので参加人数はわずかに中高生4人となりましたが、その分内容の濃い作業と、一人ひとりに十分な質疑応答の時間が取れました。予め用意した4つのショートストーリーをヒントに映画のストーリーとして膨らませ、その映画のチラシをコラージュで作るというものです。今回は

「主人公が5秒間だけ時間を止める力に手に入れた話」「地球を侵略しに来た宇宙人が全滅したのはインフルエンザのおかげだった話」「小さな田舎のネズミが都会を目指して旅した話」「ハイキングでゴンドラに乗ったら取り残され、殺人鬼と居合わせたグループの話」の4つ。もちろん話は自由に変えてよいのですが、中高生の発想の豊かさには毎回驚かされます。



▲左から「小さなネズミ」「宇宙人侵略」「ゴンドラの殺人鬼(2つ)」。元のお題からは想像がつかないストーリーの改造と斬新なビジュアルが生まれてきます。

3月9日 「2019 TOKYO 画材ショー」池袋サンシャインシティ文化会館



3月9日(土)に、ニッカー絵具さんも出店した「2019TOKYO画材ショー」へ行ってきました。絵の具や筆、画用紙を始めとした、主にアナログの画材メーカーが一同に集まって新商品などを展示しました。また、この会場だけで激安で買える商品も各社用意しており、お客さんが群がっていました。千住工房では、100%デジタルの納品で仕事をしていますが、アナログにはアナログの良さがあり、特にペン一つにしても「手に馴染む感覚」「所有する喜び」はデジタルではなかなか味わえないものだと思います。



ニッカー絵具株式会社のブースでは、「若おかみは小学生!」の美術監督、渡邊洋一さんによる背景画のワークショップが行われていました。小学生から大人まで多くの人が参加して楽しそうに空と雲を描いていました。



毛筆を中心とした文具メーカー名村大成堂では、職人による筆づくりの実演をしていました。毛を一本一本選別、方向を合わせ、やっと一本の筆になるまでを見せてくれました。また、各ブースの画材を使った作家によるデモで盛り上がっていました。

